# 第19回　3D教育研究会
## 開催レポート　ーダイジェストー

2014 年 6 月 21 日（土）、千代田区大手町にある KKR ホテル東京にて、第 19 回 3D 教育研究会が開催された。13 校の学校および学校関係者が多数参加。

「グローバル社会で主体的に活躍する人材育成の為の研究開発」と題し、SGH 指定校である順天中学校・高等学校の副校長 片倉 敦先生にご講演を頂きました。その後は、『3D 教育プログラム』の実践報告の場が持たれ、参加校の各先生方による発言や意見も飛び交い、充実した時間となりました。

平成 26 年 7 月吉日
株式会社 KA 教育
代表取締役　菊地　淳

# 第 1 部「講 演 会」

## 会長挨拶

**3D 教育研究会 会長挨拶**

**片倉 敦先生（順天中学校・高等学校 副校長）**

皆様こんにちは。お忙しい中お集りいただきありがとうございます。

本校が SGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)に指定され、その件で話を聞かせて欲しいという要望がありましたので、これまで私が勉強してきたこと、また、本校が取り組んできたことを報告させていただきたいと思います。

昨今、グローバル時代と言われていますが、この先、一般企業において一緒に仕事をする仲間のうちの何人かは必ず外国人となります。さらに外国での仕事も必須となってくるでしょう。そうなった時に嫌々外に出て荒波に飲まれるか、今のうちに国際化した考え方を身につけて荒海に出ていくかということなのです。

例えば武田薬品という 200 年以上続いている会社の社長が外国人になる時代でもあります。私たち教員はそういうことがあまり分かっていないのですが、子どもたちが全員教員になるわけではなく、むしろほとんどが一般の社会に出るわけですので、その子どもたちに如何にグローバル化に対応出来るかというような教育をしていかなければなりません。そういうことが分かってきました。

また、人からの指示を待ち、それをしっかりとやれば良いという時代は終わってしまっており、むしろ自分で考えて自分で行動をするという時代になってきています。これから国際化を迎えるにあたって、良いこともあれば、非常に大変な思いをすることもあります。その先駆けとして本校では SGH を行うことになりました。

この 3D 教育研究会が掲げる“グルコミ”の手法とも関係深いことも大いにありますので、その辺のお話もさせていただこうと思います。

# 講　演「グローバル社会で主体的に活躍する人材育成の為の研究開発」

## ～主体的にコミュニケーションがとれる人間関係力を育む 3D 教育プログラム～

片倉 敦先生（順天中学校・高等学校　副校長）

『英知をもって国際社会で活躍する人間を育成する』というのが本校においての教育目標でしたので、このグローバルということについては以前より考えてきました。

そして今回の SGH が掲げる『グローバル社会で主体的に活躍する資質と人材育成』ということが、本校の教育目標とほとんど同じでした。

### ■これからの日本に必要な人材像とは

『新たな価値を創造する人材』⇒創造的学力

『諸外国の人達とコラボレーションして広げていく人材』⇒国際対話力

『世代や立場を超えてコミュニケーションできる人材』⇒人間関係力

### ■スーパーグローバルハイスクールとは（文部科学省ホームページより）

**スーパーグローバルハイスクールについて**

◆目的：急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する。

◆事業概要：国際化を進める国内の大学を中心に、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材の育成に取り組む高等学校等を「スーパーグローバルハイスクール」に指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を進める。

指定期間：平成26年度より５年間
対象学校：国公私立高等学校及び中高一貫教育校（中等教育学校、併設型及び連携型中学校・高等学校）
指定校数：56校

文部科学省 → 管理機関（設置者）　連携・協力　国際化を進める大学　企業、国際機関（OECD, UNESCO等）、非営利団体等

文部科学省：・学校の指定（5年間）・指導・助言・評価・支援
管理機関（設置者）：指導・助言・評価
国際化を進める大学：連携
企業、国際機関：人材、プログラムの提供

**スーパーグローバルハイスクール（SGH）**

【主な取組】
- グローバル・リーダー育成に資する課題研究（例：国際的に関心が高い社会課題）を中心とした教育課程の研究開発・実践（教育課程の特例の活用を想定）
- グループワーク、ディスカッション、論文作成、プレゼンテーション、プロジェクト型学習等の実施（英語によるものも含む）
- 海外の高校・大学等（ESDを通じたユネスコスクールを含む。）と連携した課題研究に関するフィールドワーク、成果発表等のための海外研修
- 帰国・外国人生徒の積極的受入れ、大学との連携を通じた外国人留学生とのアカデミックなワークショップ
- 大学との連携を通じた、課題研究内容に関する専門性を有する帰国・外国人教員の活用

【大学との連携】
- 課題研究に関する指導を行う帰国・外国人教員等の派遣や、大学生によるサポート
- 国際展開を担当する部署との連携を通じた海外研修等の企画・立案に関するノウハウの伝授
- 入試の改善による生徒の学習内容の適切な評価
- 単位認定を含む高大連携プログラムの提供

→ グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材（国際機関職員、社会起業家、グローバル企業の経営者、政治家、研究者等）の輩出

主な取組として掲げている『グループワーク』＝『グループコミュニケーション』は必須ということになります。

## ■順天高校 SGH の取組み

教育目標「英知をもって国際社会で活躍する人間を育成する」

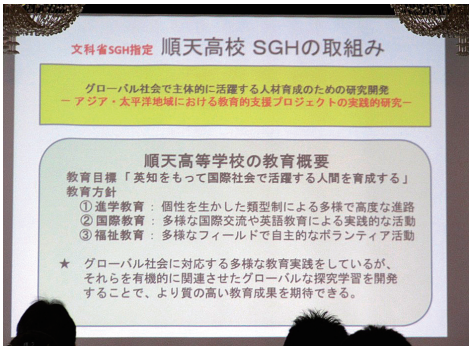
教育方針として以下を掲げています。

①進学教育：個性を生かした類型制による多様で高度な進路

②国際教育：多様な国際交流や英語教育による実践的な活動

③福祉教育：多様なフィールドで自主的なボランティア活動

グローバル社会に対応する多様な教育実践をしているが、それらを有機的に関連させたグローバルな探求学習を開発することで、より質の高い教育成果が期待できます。




## ■ SGH の研究課題として

### 1. ネットワークによる探求学習の開発

グローバルな課題に対する英語の資料教材等を、海外連携校の生徒等と共同制作する。

▶カナダ、オーストラリアの学校と連携しています。

### 2. スクールワークによる統合的な探求学習の開発

グローバルな課題に対するワークショップで、英語教材等も用いて統合的に探求する。

▶グループコミュニケーションを用いた学習をしています。

### 3. フィールドワークによる創造的な探求学習の開発

グローバルな課題の開発に向けたフィールドワークを、海外の生徒と共に実践する。

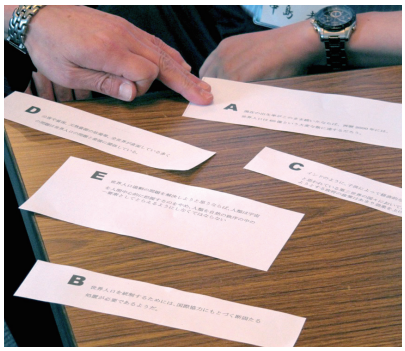
▶国内だけではなく海外で経験をするということです。

**グローバル社会で主体的に活躍する資質・人材育成**

**①創造的学力　②国際対話力　③人間関係力　＋ IB 教育の学習者像（IB Learner Profile）**

実際の授業でも行われているグループワークが行われました。

**参加者 4 人一組でグループを作り①創造的学力を例えた実践（約 4 分）**




予め文章が書かれた A ～ E までの 5 枚の紙を配り、どういう順序の文章にするのかというゲーム的な実践。正確な答えは無く、何故その順序なのかとういう理由を発表するものでした。

　これに正解はないですが、これから先、外国人と一緒に働く際に意識しなければならないということです。何故ならば考え方が様々だからです。例えば 2 人日本人で 2 人別の外国人だった場合、まず考え方が異なります。ならばどうすれば良いのか？というのを高校時代から考えさせるという実践方法です。

　『創造的学力』というものを普段の授業で教えるのは難しいです。ではどこで学ばせるのかというと、やはりグループコミュニケーションの授業が最適なのではないかと考えています。

## ■ IB 教育の学習者像（IB Learner Profile）について

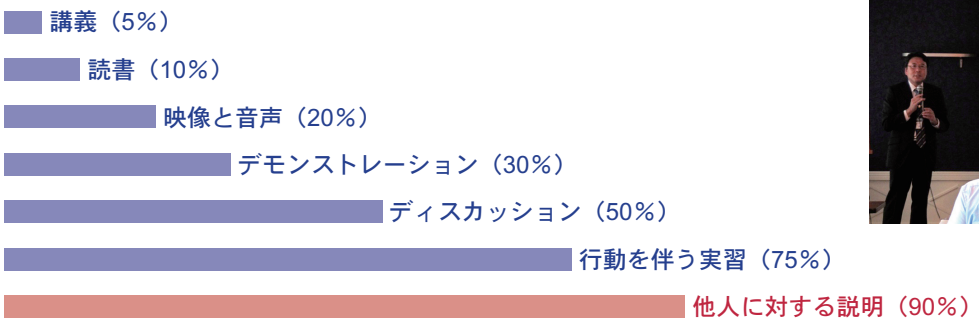
本校においてもうひとつ重要なのが IB 教育の学習者像(IB Learner Profile)だと考えます。
これは、様々な人種の人たちが異国で勉強をし、母国に帰ってきた際に有能な人材になれるような教育をしようということです。

Inquirers ＝探求する人
Knowledgeable ＝知識のある人
Thinkers ＝考える人
Communicators ＝コミュニケーションができる人
Principled ＝信念のある人
Open-minded ＝心を開く人
Caring ＝思いやりのある人
Risk-takers ＝挑戦する人
Balanced ＝バランスのとれた人
Reflective ＝振り返りのできる人

上記を基に数学や科学の勉強を行うといった考えですが、現在の日本の高校の教育は異なっています。受験教育が中心というのが現状で、日本の教育だけが如何に特殊かということがうかがえます。文部科学省的には詰め込み型の学習だけでなく、こういった教育を行うことを推奨しています。

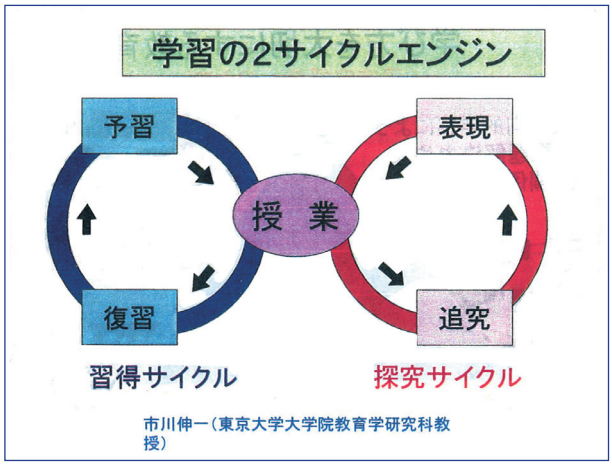
## ■学び方を大切にする教育～双方向授業へのシフト～

双方向的学びによって課題解決力や人間関係力が編まれます。

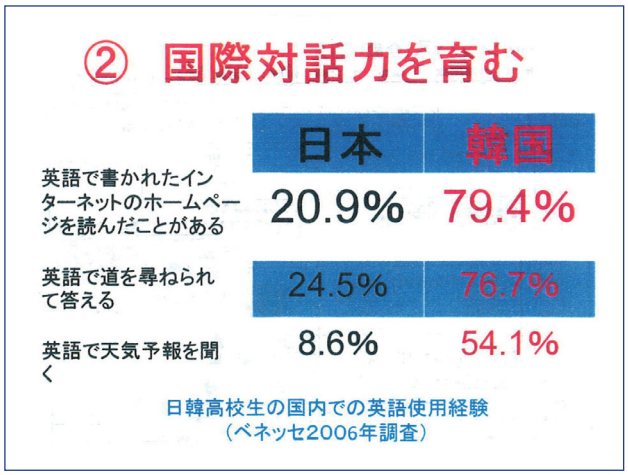


## ■学習の 2 サイクルエンジン

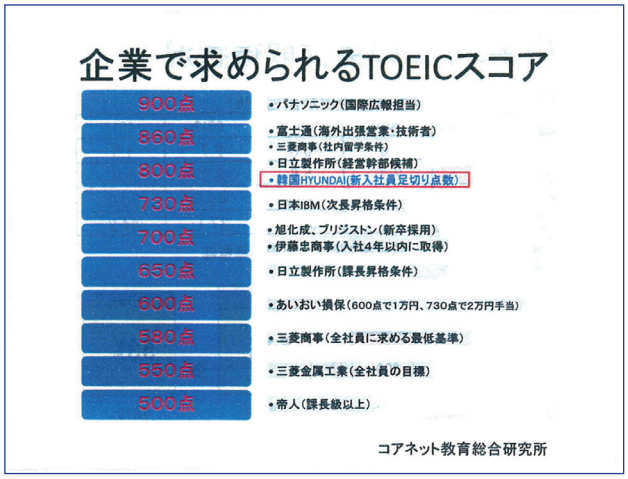
国語、英語、数学は最初の段階においては予習、復習の習得サイクルが必要であり、理科、社会は探求サイクルの授業を目指しています。これはどちらかに偏ると良くありません。



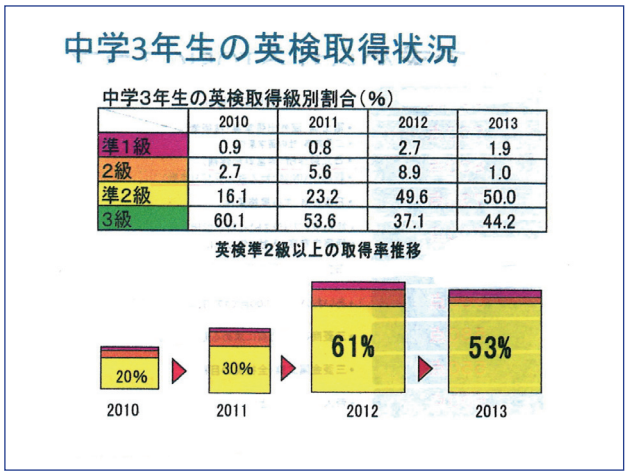
■国際対話力を育む




■企業で求められる TOEIC スコア



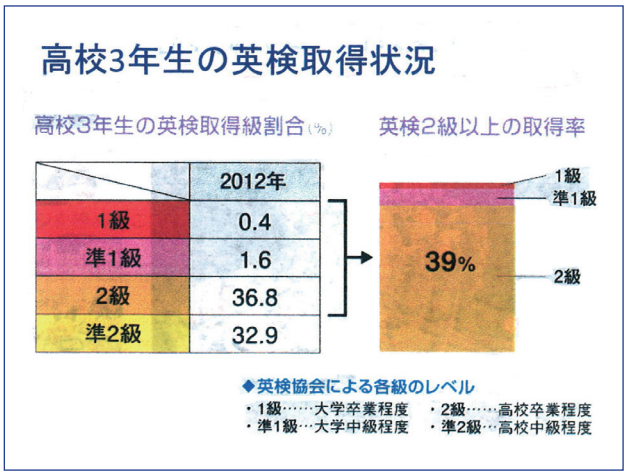

■中学 3 年生の英検取得状況




| | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|---|---|---|---|---|
| 準1級 | 0.9 | 0.8 | 2.7 | 1.9 |
| 2級 | 2.7 | 5.6 | 8.9 | 1.0 |
| 準2級 | 16.1 | 23.2 | 49.6 | 50.0 |
| 3級 | 60.1 | 53.6 | 37.1 | 44.2 |

海外経験のない生徒でも半数が準 2 級を取得しています。

■高校 3 年生の英検取得状況




高校生になると 4 割程度が 2 級を取得しています。

■主体的にコミュニケーションがとれる
　人間関係力を育むグループコミュニケーション

答えに正解のないようなグルコミの教材を積極的に取り入れていきたいと考えます。例えば“難民の子どもたちをどうやって助けるのか”というような題材のものを行っていきたいと思います。

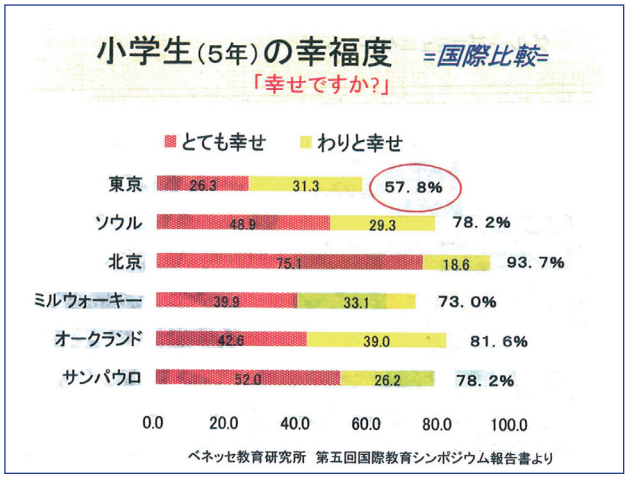
■大学生の就職選考での最重点

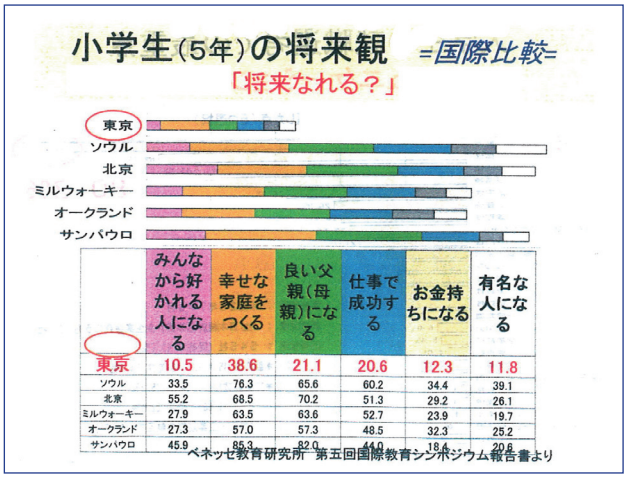
コミュニケーション能力が一番重要だと考えられています。

コミュニケーション能力に関して誤解もありますが、例えばメールや LINE 等でのコミュニケーションではなく、考え方の違う人とお互いに理解しながら話が出来るかということです。今の子どもたちは仮想でのコミュニケーションを取っており、これは本当のコミュニケーションではありません。

## ■小学 5 年生の幸福度＝国際比較＝

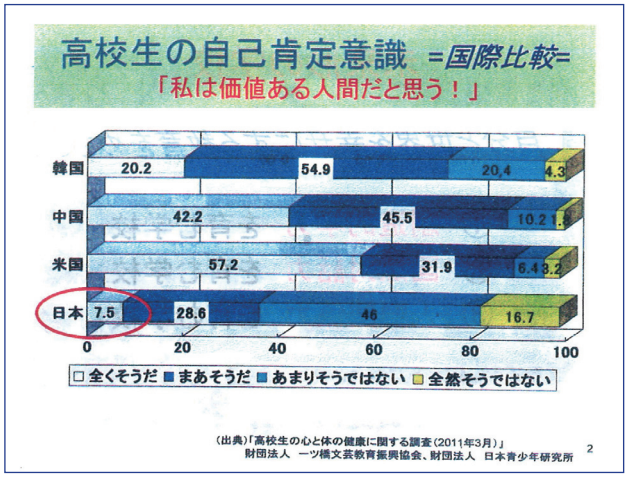
日本は諸外国と比較して幸福度が低いという結果です。何故ならば学校において成績だけで区別するからです。要するに物差しが成績ひとつということが原因だと考えられます。日本の学校のシステムがそういうことになっているのが現状です。




| | みんなから好かれる人になる | 幸せな家庭をつくる | 良い父親(母親)になる | 仕事で成功する | お金持ちになる | 有名な人になる |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 東京 | 10.5 | 38.6 | 21.1 | 20.6 | 12.3 | 11.8 |
| ソウル | 33.5 | 76.3 | 65.6 | 60.2 | 34.4 | 39.1 |
| 北京 | 55.2 | 68.5 | 70.2 | 51.3 | 29.2 | 26.1 |
| ミルウォーキー | 27.9 | 63.5 | 63.6 | 52.7 | 23.9 | 19.7 |
| オークランド | 27.3 | 57.0 | 57.3 | 48.5 | 32.3 | 25.2 |
| サンパウロ | 45.9 | 85.3 | 82.0 | 44.0 | 18.4 | 20.6 |

## ■高校生の自己肯定意識＝国際比較＝



## ■未来型の学校

### ～自分と世界を幸せにする教育をめざして～

①**創造的学力**を育む学校　　②**国際対話力**を育む学校　　③**人間関係力**を育む学校

## ■おわりに

最後にこれが一番重要なのですが、自分と世界を幸せにする教育を目指さなくてはならないということです。

自分だけ（日本だけ）が幸せになるというようなことをやってしまっては、必ず世界から敬遠されてしまいます。ですから、自分と相手を幸せにするという教育を目指していくということが大事です。そこを目指していきたいと考えています。

本日はどうもありがとうございました。

## 質 疑 応 答

【Q】

コミュニケーションということが大事だと言われますが、子どもたちの中ではそれが出来るか出来ないかという点で逆の価値観を作ってしまっているような部分があるのではないかと思います。最近、子どもたちの間で『コミュ障』（コミュニケーション障害）と呼ばれていますが、コミュニケーション出来る人間が価値があり、出来ないと価値が無いという切り方をしていまっています。逆の弊害が生まれているような所もあり、教育や価値観を提示する立場の人間としてその辺が難しいと感じます。その辺りの対応の仕方はどのようにすれば良いのか考えてしまいます。

山田 道行先生（京華中学校・高等学校）

【A】

今の子どもたちは場の雰囲気を読むというか、その場の中でいかに嫌われないようなことを言うかという部分があります。AC が高いということになります。コミュニケーションがそこで途絶えたとしても自分の意見を述べることが大切なのです。例えば LINE 等もそうですし、ああいったものは皆の意見を追随していくのです。そういうものはコミュニケーションとは呼びません。相手の気持ちを理解して、それに対して賛成であろうと反対であろうとしっかりとした意見を述べれるというのが真のコミュニケーションだと思います。ネット上などでの軽い対話に熱中している子どもたちには、それはコミュニケーションでは無いということをしっかり伝えなければ勘違いするでしょう。逆に何かで意見が割れたとして、少数派になったとしても周りに流されるのではなく自分の意見をしっかりと伝えることが大事だということを伝えていかなくてはならないと思います。

【Q】

様々な SGH の研究課題に取り組まれていると思うのですが、例えばフィールドワークに関して、どの学年でどのくらいの生徒が行っているのでしょうか？

塩谷 耕先生（京華中学校・高等学校）

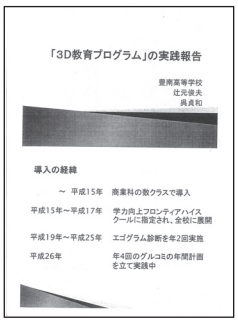
【A】

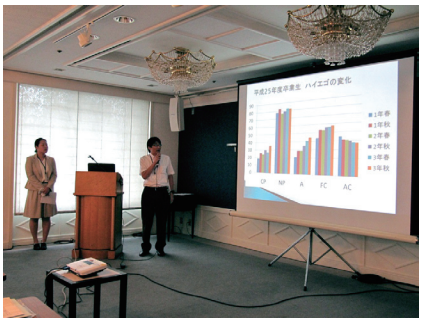
1 年目ですので今年は 40 名で行っています。E クラス（イングリッシュコース）37 名＋他 3 名となります。来年は更に増える見込みで 120 名くらいまで増えても現在の体制でまったく問題ないと思います。
ただ 3 年経つと 250 名くらいになります。100 名くらいですと現在のやり方で良いのですが、今後の対応として同時に教員を育て、各担任が担当できるような体制を考えています。ちなみに SGH に関わる生徒を総称で GRAP（Global Leaders Action Program）という名前にしました。

# 「3D 教育プログラム」の実践報告

## 豊南高等学校　辻元 俊夫先生・呉 貞和先生

【実践報告の内容】



○導入の経緯
○平成 25 年度卒業生　ハイエゴの変化
○現在の状況と問題点
○建学の精神に基づいた教育の実践
○指導計画
○第 1 学年「夢を叶える長友佑都編」
　実施内容：事前準備～授業の様子
　　～ふりかえりシート（生徒／教員）～課題
○第 2 学年「豊南村の人々（2)」
　実施内容：事前準備～授業の様子
　　～ふりかえりシート（生徒／教員）～課題
○第 1 学年「豊南村の人々（3)」
　実施内容：事前準備～授業の様子
　　～ふりかえりシート（生徒／教員）～課題
　☆当日の様子を収めたビデオ上映有

■今後の目標として…

CP と A が低く、AC と NP と FC が高いという傾向があります。その部分を克服するためにもこれらのグルコミ教材を取り入れながら、学校行事にも反映させていくといったところが課題だと思います。
また、第 2 タームの前にこの結果を先生方にフィードバックして次に生かせればと考えております。

## 大森学園高等学校　尾島 覚先生

【実践報告の内容】

1.「3D 教育プログラム」の導入と目的
2.「3D 教育プログラム」の活用
(1)実践エゴグラム
(2)グループコミュニケーション
(3)東大に合格した A 君の実践例(3D教育プログラムの効果)
3. 今後の課題

■今後の目標として…

本校には学年の職員室があり、例えば問題のある生徒は教員間で把握しています。それと同様にエゴグラムを使用して生徒の意外な面を発見したりといったことの情報の共有も出来るのではないかと考えています。
マイチャレンジに関しても色々とアレンジをしたりまだまだ改善出来るのではないかと思います。
クラス・学年間の意思統一ということですが、退職間近の先生もいらっしゃいますし、これを担任一人の力でやっていくのは大変だということで、学年全体一枚岩で頑張ろうという話はしています。
人はそれぞれ色んな意見を持っていますが、それを理解するということが大切だと感じています。

## 参加者全員での記念撮影

*2014.6.21　第19回 3D教育研究会 in KKRホテル東京*

# 出来る・大丈夫・大成功

**3D教育研究会**

*2014.6.21　第19回 3D教育研究会 in KKRホテル東京*

**株式会社KA教育**

〒173-0012
東京都板橋区大和町12-12
03－6784－7675